

日高地区 新規就農者紹介



【就農のきっかけ】

前職は日高町で競走馬を運送する仕事をしていました。主に北海道と茨城県の往復で、家を空けることが多かったです。歳を重ね家族と過ごす時間も大切であると感じ、転職を決意しました。仕事は生活レベルを下げないことを念頭に、道内の運送業、漁業、農業を考えましたが、最終的に以前から興味のあった農業を選びました。隣町であった平取町の新規参入希望農業研修生に応募し、農家研修、実践農場研修をそれぞれ1年間受けて就農しました。

【就農して苦労したこと】

就農したころから農業資材や燃料価格が高騰し始めました。ハウスに遮光材を塗っていましたが価格が倍になったため、遮光シートに変えるなど費用を抑える工夫をしました。それでも前職と比較して収入が大きく減り、ここまでの農業資材や燃料価格の高騰は、就農時には想定できませんでした。

2025年8月取材

花田農園（平取町）

花田 季之 さん、真紀 さん

就農年：2022年1月

経営形態：施設園芸

作物：大玉トマト、きゅうり、寒締めほうれんそう

【活用した事業】

農林水産省の「農業次世代人材投資事業（就農準備資金・経営開始資金）」及び「経営発展支援事業」、平取町の「平取町新規参入者就農促進対策事業」、JAびらとりの「新規就農者ハウスリース事業」を活用し、就農時に必要な設備の準備をしました。



農薬散布機



トラクター

【営農について】

現在はハウス施設9棟で営農しています。大玉トマトは8棟（38a）、きゅうりは1棟（5a）、寒締めほうれん草は2棟（10a）で栽培しています。

大玉トマトの品種は「桃太郎ネクスト」と「桃太郎ブライト」を、きゅうりは「まりん」を栽培しています。

ハウス内のきゅうり



収穫されたきゅうり



【地域との関わり】

地域には順調に溶け込めたと思います。私は札幌出身なので、こちらの地域に来た時は付き合い方にとまどいがありました。札幌在住時は近所付き合いが薄かったのですが、助け合いといった人とのつながりは平取町が濃いと感じます。妻は日高町出身なので違いを感じなかったようです。忙しい合間に気の合う仲間とお酒を飲む時は話題も共通でとても楽しいです。

【オフタイム（冬場含め）の過ごし方】

前職と比べて2人で過ごす時間は増えたと感じます。年間の作業は、トマトの播種が2月から始まり11月まで収穫作業が続くため休みはありませんが、12月から収穫が始まる寒締めほうれんそうは栽培面積が少ないので時間に余裕ができます。買い物や映画を観たり札幌在住の長女に会いに行くことが楽しみですね。1月から2月は作業が一段落するので、毎年、夫婦で2回ほど旅行へ出かけています。神社・仏閣めぐりが好きなこともあって伊勢神宮には毎年参拝しています。御朱印帳は独身時代から数えて4冊になりました。



ハウス内のトマト

収穫されたトマト

【今後の展望】

昨今の気候変動（猛暑）が問題となっていますが、今までの栽培技術ではこの気候に対応できないと感じています。このような厳しい状況の中でもしっかりトマトを収穫できる技術を身につけたいです。

自分の作りたいものではなく、消費者が求めるものを作っていきたいと思っています。



きゅうりを確認する季之さん



収穫したてのトマトと真紀さん

【今後、就農する方々に伝えたいこと】

農業への憧れだけで就農しないよう慎重に判断してください。資材の高騰など、ここ2、3年で状況が変わってきて、経営も非常に厳しくなっています。多くの人から話を聞き、よく考えた上で行動に移してください。

農業をするということは、その地域に根ざすということです。住んでみないと分からないことも沢山あります。例えば、子育て、買い物、病院、人とのつながりなどもあります。リスクもよく考えた上で下準備をすることが絶対に必要です。骨をうずめる覚悟でやっていけるのかよく考えてください。

生活面を含めて大変なことが多いので、デメリットを教えてください。人々の話をよく聞くことが大事だと思います。